



ピーマン 整枝、追肥、灌水、剪定で長期収穫

トウガラシのうち、辛味のない肉厚の楕円形だえんのものがピーマンです。また、パプリカと呼ばれるものは、赤、黄、橙だいだいなどの着色した完熟果を収穫する品種です。高温性で暑さに強く、病害虫が少ないので栽培しやすい野菜です。

【品種】

ピーマンの育苗期間は70〜80日と長いので、苗の購入が便利です。品種を特定することが難しいですが「京まつり」(タキイ種苗)、「翠玉二号」(サカタのタネ)などが良いでしょう。

【良い苗の選び方】

良い苗は、①本葉8〜10枚で、双葉

図1 良い苗の選び方

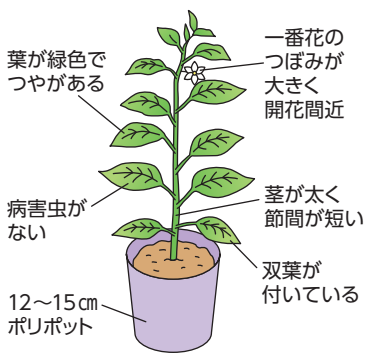


図2 畑の準備

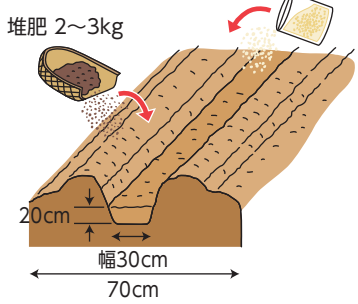


図3 植え付け

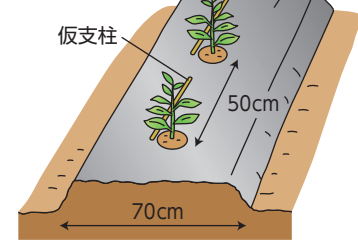
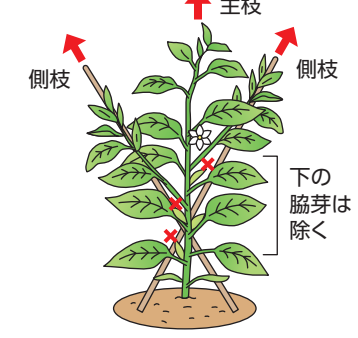


図4 整枝・誘引



栽培カレンダー (ピーマン)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
冷涼地			▲	■	■	■		
中間地		▲	■	■	■	■		
暖地	▲	■	■	■	■	■		

▲ 植え付け ■ 生育 ■ 収穫

が付いている②茎が太く節間が短くしっかりとしている③葉が緑色でつやがある④一番花のつぼみが付いている⑤病害虫のないもの、です(図1)。

【畑の準備】

植え付け2週間前に、1平方m当たり苦土石灰100gをまいて土よく混ぜておきます。

1条植えの場合は1週間前に幅70cm程度の栽培床を作り、中央に幅30cm、深さ20cmの溝を掘り溝1m当たり化成肥料(NPK各成分10%程度)200gと堆肥2〜3kgを施しておきます(図2)。

【植え付け】

晩霜の恐れがなくなったら、株間50

cm程度で植え付けます。あらかじめ黒のポリフィルムでマルチをし、地温を高めておきます(図3)。

【整枝・誘引】

植え付けと同時に仮支柱を斜めに挿し、株を支えます。

一番花が着果すると脇芽が伸びてくるので、一番花のすぐ下から出る勢いの良い2本の側枝を残し、他は取り除き3本仕立てにします。そして、一番花より下の脇芽は早めに摘み取ります(図4)。なお、一番花は着果負担があるため、開花中に摘花します。

その後、主枝または側枝に沿って1m以上の支柱2、3本を交差させて誘引・固定します。

【追肥・灌水】

収穫が始まる頃から、マルチフィルムフィルムの裾をめくり、1平方m当たり

【剪定】

盛夏になると、枝が込み合い、葉が茂って果実への日当たりが悪くなってきました。そこでこの頃に、重なった枝を剪定します。

【病害虫防除】

アブラムシにはマラソン乳剤、アディオン乳剤などの登録農薬で防除します。

【収穫】

開花後15〜20日、30g程度のおよぼしたつやのある若い果実を収穫します。